

社会人になってこんなこと感じました。

第4期 OG 篠田 和恵

社会人になってまだ1年半と全然時間は経っていませんが、日々目の前の仕事に追われながらも、常に色々なことを考え、感じ、そして悩んでいます。今回はそんな私の感じたことの一部をご紹介します、「会社って、社会人ってこういうものなんだ。」とか「私も同じこと考えた。」などと共感していただければ幸いです。

◆社会人には実に色々なタイプの人間がいる

会社に入って思ったのは、世の中には今まで出会ったことのないような実に様々なタイプの人間がいるということです。人目も気にせずヒステリックになれる人、自分の言っていることとやっていることが完全に矛盾している人、「仕事はスピード命」と確認作業までも割愛してしまう人など。私が「ありえない!」と思った人を先に挙げてしまいましたが、もちろん尊敬すべき人たちもたくさんいます。

なぜ、こんなに色々な人たちがいるのだらうと私なりに考えてみたのですが、まず、大学入試のように、皆が一様に受ける試験のような、入社するにあたってのハードルがないことが挙げられるのではないのでしょうか。新卒で入社する人は、強い志望動機があつて、同じような面接をして、それをクリアしてきた人たちですが、会社にいる人たちは必ずしも皆そうではありません。また、20代から50代くらいの幅広い年齢層の人たちがいることも要因の1つではないかと思います。

◆後輩に指示を出すのは難しい

社会人2年目になった私が最近直面している問題は、「いい先輩になるのは難しい。」ということです。私の下には早くも後輩が入ってきているのですが、正直、自分が要望するような資料をお願いして作成してもらっただけでもうまくいかないときがあります。指示を出すときにはいつも、こと細かに説明、確認をして、自分が要望しているような資料を作ってもらった方がよいのか、それとも大枠の指示だけ出して、なるべく自分で考えて作ってもらった方がよいのかということに悩みます。

また同じように、私が注意したことなどをいかに聞き入れてもらえるようにするかということについてもよく考えています。こちらは、私自身が注意をされて自然と聞き入れてしまう人と、なんとなく聞き流してしまう人の違いを検証して、自分の言動に反映させたいと思っています。

ここまで、徒然に私の思うことを書き連ねてしまいましたが、社会人になっての感想を一言でまとめると、「会社や世の中には、色々な立場や性格の人たちがいて、その人たちと関わり合いながら仕事をしていると、結局は自分自身の人となりを考えることになり、日々自分の言動を振り返り、磨いていくことになるのだな。」ということです。まだまだ始まったばかりの社会人生活ですが、まずはいい先輩になることを目標に努めて参りたいと思います。